

1 自己評価(2ユニット分) 及び外部評価結果(全ユニット対象)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400017		
法人名	有限会社リナ		
事業所名	グループホーム中野		
所在地	千葉県若葉区中野66-5		
自己評価作成日	2009年10月1日	評価結果市町村受理日	2010年3月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓ このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	2009年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の希望に沿った本人本位の支援を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

126号線中野操車場の近くにあり、古くからの住民がいる地域だが、そこに溶け込んでいるホームである。2つのユニットは事務所をはさんでそれぞれが独立した作りとなっている。職員は、理念の実現を統一目標とし、安心と尊厳のある毎日を送れるよう支援している。寝たきり状態から自立に近い状態となった改善例も数例あり、入居者同士で助け合う姿もみられ良い関係が保たれている。職員の異動は少なく、夜間の体制も手厚い。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価(2ユニット分) および外部評価結果(全ユニット対象)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念は「認知症によって自立した生活が困難になった入居者に対して安心と尊厳のある生活を支援する」です。理念を目につくところに掲示しています。	理念が壁に貼られ、その実現のために支援することを両ユニットの職員間の統一目標としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会等に参加し、地元の方と交流しています。散歩の時などもあいさつを交わし、日常的な交流がある。	自治会に加入している。ボランティアや職員を通じて近隣との付き合いがあり、敬老会や花火大会等に出席している。犬の散歩の途中で立ち寄り、お茶を飲んでいく近隣住民もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の自治会と連絡をとり合い、生活が困難になってきた方の情報を共有して必要な援助ができるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		今年度運営推進委員会を発足させ、計3回開催することが出来た。自治会長、あんしんケアセンター、民生委員などの参加を得て、今後も会議の充実を図っていこうと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員と連絡を取り、協力関係を築くよう心がけている。	市町村とは、日頃から往来があり協力関係にある。新しい入居者の情報が、市町村から提供される事例もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの手引き」などをテキストに施設内で勉強会を開いている。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。鍵をかけないことを徹底し、どのドアも施錠していない。「身体拘束ゼロの手引き」に沿った勉強会を開き職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待を考える」などをテキストに施設内で勉強会を開いている。日頃から虐待事件を話題にして防止に努力している。		

グループホーム中野 自己評価(2ユニット分) および評価結果(全ユニット対象)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉市権利擁護センターと連携し、必要な方に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明に充分時間をかけるようにしている。又、質問がないかこちらから伺うようにしている、安心して話ができるような雰囲気を作ることを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との人間関係を大切に何でも話しやすい雰囲気を心がけている。定期的に要望を聞くようにしている。	管理者と職員は、入居者と何でも話し合える関係を心がけている。家族の要望や意見は、訪問時や定期的に行われているケアプランの見直し時などに聴取している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは日頃から運営に関しての話をするようにしている。良い意見を取り入れている。	現場の意見や要望の聞き取りは、ミーティング以外にも度々行われ、管理者と職員間のコミュニケーションは良好である。意見や要望は運営に取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会への参加を促しやりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加するよう促している。又、施設内での勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「認知症の会」に参加し、理解を深めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話によく耳を傾け、本人の求めていることを理解するよう心がけている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聞き、ご家族がどのようなことを求めているか理解できるよう努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からよく話を聞き、グループホームとして何がご本人・家族のためになるのか、よく考えた上で支援を行っている。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力に合った役割をしていただいて、共に過ごし支え合う関係を築くよう心がけている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携をとりながら、ご本人を共に支えていく関係がつかれるよう努めている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、職場など、できる限り交流が保てるよう努めている。	勤めていた会社を定期的に訪ねる、入居前から利用している馴染みの美容室に通う、親しい友人が毎月訪問してくる等、入居者の馴染みの関係を大切に支援をしている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係をよく見守り、お互いに気持ちよく過ごせるよう必要な支援を心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も交流を持ち関係性を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安心して話の出来る雰囲気を作心がけ、本人の本心が開けるよう心がけています。困難な場合は生活歴などから、その人の望む生活を考えています。	日常の会話の中から把握に努めている。困難な人の場合も、表情などから、読み取る努力をしている。	
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からだけでなく、ご家族などからもよく話をうかがって、なじみの暮らし方を知るよう努めています。		
25		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を先入観にとらわれずに目をむけるよう心がけています。スタッフからの情報収集に努めています。		
26	(10)	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、本人に合ったプランを考えています。毎月モニタリングを行い、現状把握に努めています。	本人の思いや全職員の気づきを大切にしながら、計画を立て、モニタリングを行っている。	
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録している。毎日、情報交換のための話し合いを行っていて、必要であれば計画の見直しにつなげている。		
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対し、ホームとして最大限に対応している。		

グループホーム中野 自己評価(2ユニット分) および評価結果(全ユニット対象)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の敬老会などに参加し暮らしの楽しみの一部となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限りかかりつけ医に継続して通院している。家族・本人の希望を大切にして、適切な医療が受けられるよう努めている。	ホームの提携医療機関もあるが、もともとのかかりつけ医受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、訪問診療の医師に相談し、適切な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には面会に頻回に通い、安心して過ごせるよう心がけている。その際、情報が共有できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と連携をとり、本人の状態を把握しながら、ご家族との相談をもとに方針を共有するようにしている。	かかりつけ医と連携をとりつつ、方針を共有するようにしているが、本格的な体制づくりはこれからといったところである。	各方面と話し合いを重ねながら、方針を共有し、支援できる体制を作ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、初期対応の訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行い、非常時の対応が確実に行えるよう努めている。	非常時に備えて半年に1回訓練をしている。しかし、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	いざという時には地域の協力が不可欠なので、協力を得られるように働きかけていくことが期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応は、本人の気持ちを考えて行うよう注意している。	職員は自尊心やプライバシーの配慮して、声かけ等をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のコミュニケーション能力に応じてわかりやすく説明するようにしている。返事のしやすい質問を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールは決まっているが、無理強いはしないようにしている。出来る限り、本人の希望をとり入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞きながら身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは能力に応じて行っている。	可能な人は準備や後片付けに参加している。入居者同士で助け合い、和気藹々とした雰囲気です。	職員は近くから入居者を見守っており、和やかな雰囲気をつくっているが、一緒に食事はしていない。何人かでも同じテーブルで食事ができると良いと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をチェックし、必要量が摂取できるよう声かけや補食を行っている。個別に応じた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力、状態に応じたケアを行っている。必要な方には歯科受診していただいている。		

グループホーム中野 自己評価(2ユニット分) および評価結果(全ユニット対象)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。個々に応じ、誘導、声かけ介助を行っています。	排泄パターンの把握により、早めの誘導を心がけ、自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促している。なるべく散歩に行くようにしている。排便の確認をし、定期的に排便できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかなスケジュールはあるが、無理強いはいしていない。出来るだけ、ご本人の希望に合わせている。	週2回利用者の要望を取り入れて、時間を決めず入浴ができるようにしている。個々の身体状況に合わせて支援している。	週2回と決まっているので、回数を決めずに入浴支援できる体制を作ることが期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごせるよう、散歩やぬり絵、おり紙などをとり入れている。ご本人の状況に応じ休息を促している。必要な方には精神科受診をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書はいつでも見られるようにしている。処方どおりに使用できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの性格や能力を考え、ご本人が気持ちよく過ごせるよう個別に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望する時に散歩に出られるよう努めている。定期的に外食する機会を作っている。	車イスの入居者も含め、散歩には毎日出ている。また、ラーメンやお寿司の外食を楽しむこともある。	

グループホーム中野 自己評価(2ユニット分) および評価結果(全ユニット対象)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	宅配牛乳など、本人の希望に沿うよう支援している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ、電話のやりとりの支援を行っている。		
52	(19)	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごせるよう、明るさや温度の調整をしている。又季節を感じていただけるような飾りを心がけている。	季節の花や飾りで四季を感じるようにしている。不快な音や匂いはなく、室温も適切である。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々に応じて利用者が気分よく過ごせるよう気を配っている。		
54	(20)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、ご本人の希望に沿って居室を整えている。部屋の換気、湿度にも気を配っている。	どの部屋も写真をいっぱい飾り、暖かい雰囲気をつくっている。入居者にとって居心地の良い部屋になるよう支援している。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、能力を生かした生活ができるよう支援している。		